

日時：令和7年7月10日（木） 13時30分から14時40分まで

場所：佐久合同庁舎4階 401会議室

1. 開会

2. あいさつ

【佐久地域振興局企画振興課長】

本日は、今年3月に設置が承認された「北部方面分科会」の初回開催。

佐久地域の公共交通は、利用者減少や担い手不足など、全国的な課題に直面している。県地域公共交通計画では、「通院」「通学」「観光」の移動における品質保証を掲げており、本分科会ではその実現に向け、実務担当者の皆様と具体的な議論を進めてまいりたい。

佐久地域の持続的な発展のため、皆様の率直なご意見をぜひいただきたい。

3. 議事

（1）長野県地域公共交通計画佐久地域編について

【事務局】（資料に沿って説明）

（2）「信州型広域バス路線支援制度」等について

【交通政策課】（資料に沿って説明）

（3）佐久御代田線 現況報告

【事務局】

新しいバス路線の支援策の対象となりうる路線は4路線。

「佐久御代田線」「中仙道線（佐久方面）」「北相木村村営バス」「南相木村村営バス」

そのなかで、本分科会の対象となる「佐久御代田線」について重点的に話をしたいので、バス事業者及び関連市町村に現況報告をお願いしたい。

【千曲バス株式会社】

佐久御代田線は、令和2年度からの5か年分のデータを添付した。輸送人員については、ちょうどコロナ禍からのスタートということで、利用者がだんだん戻ってきているという形。令和6年度は7227人ということで、令和2年度と比べれば約1.6倍の増となっている。

運行便数については、令和4年度と5年度で運行便数に差がある。これは、ちょうど今議論している通学の足の課題にも当たってくるが、19時台のバス部活帰り便を以前やっていたが、輸送人員が一年当たり平均2.5人かかっていう数字の中で利用者が少ないということで減便した結果。

ただ、便数は減っているが、輸送人員は伸びているので、一年当たりの乗車人員の効率を見ると令和6年度はかなり良くなり、15.12人となった。

運送収入に関しても、輸送人員に合わせて上がってはきているが、キロ当たりの費用と比較するとだいぶ差が出ている。収支差は約6百万円の赤字。

令和7年度より佐久御代田線に関しては、御代田町と契約バスという形で委託契約の路線として運行をしている。

【御代田町】

最初に佐久御代田線の経過については、平成20年度から佐久市と共同により佐久御代田線として御代田駅から浅間総合病院まで運行している。

平成24年に運賃改定を行い、令和5年から今現在の上下往復一便運行をしているところ。

直近の利用状況については、グラフのとおり。

朝と夕方の便で大きな乖離がある。夕方の便については、学生の部活動やアルバイトをする学生もいるため、帰りの時間がバラバラというところで、これだけ差が出ている状況。

先ほど千曲バスの説明でもあったとおり、夜の便については、令和4年度までやっていたが、今現在は廃止。その他の交通手段として、「しなの鉄道の増便事業」や「タクシー」、町内の「公共ライドシェア」等がある。

(4) 地域拠点・品質保証等について意見交換

【事務局】

拠点案については、本年3月の部会でも特に意見なかったが、何か意見や質問などはあるか？

(質疑なし・異議なし)

次に、事務局で整理したデータを参考資料で提供する。各市町村からのアクセス状況等を表に落とし込んだものだが、全てを○にする必要があるとは考えていない。南佐久から軽井沢の病院まで普段使いで通院する等は考えにくい状況もある。

観光では、望月宿や白樺湖等は中仙道線の利用が出来ないため、アクセスが限られるという現状ではあった。

限られた予算や人材の中で、地域にとって本当に必要な品質を見極めて、見直しを図ることが必要。

品質保証に関する意見をとりまとめていきたい。

【佐久市】

品質保証については、高校生の通学の足の確保に対して理解が出来ていないところもあるが、色々なパターンでの学生の帰宅の足を確保する必要があるということか？

【事務局】

実際に全ての学生の足を確保するために様々な時間にバスを走らせる必要があるという話ではない。バス以外にも代替的な足の確保があれば問題はない。意見交換をしながら、佐久地域編の品質保証としてはこうですという線引きが出来ればと考えている。

【千曲バス】

先ほど話にも上がったが、全ての学生に対応する便を走らせるのは実際には出来ないため、ある程度線引きが必要との認識。佐久御代田線は、佐久市方面への通学の足として、複数の学校をカバーする路線として運行しているため、ある程度の通学の足はカバーできていると認識。

ただし、通院については、日中便のバスがないためデマンド交通等を利用して通院の足を確保してもらえ

ばと考えている。

【事務局】

御代田町としては先ほど説明いただいたように部活後の対応便を運行させていたが、廃便となった経緯からも部活便を再度運行するような考えはないという状況か？

【御代田町】

廃便になった経緯もあることから、現時点では考えていない。

御代田町から町外に出る場合は、バス以外にもしなの鉄道があり、移動の足が全くない状態ではないという認識。

【事務局】

公共交通と街づくりとして、コンパクトシティに取り組まれている小諸市は、デマンド交通も活用し、小諸駅周辺を起点に各方面に移動できる足を確保していると思うが、品質保証と聞いて、どのような受け止めか。

【小諸市】

小諸市の取組として、公共交通についてはまずは市内の移動をメインに考えている。特に自家用車で移動が困難な高齢者の方に対して、デマンド交通で対応しているような状況。一方で通院用の便を試行的に運行してみたが、需要がつかみきれなかったので、今年度はこのあたり試行してみて、結論を出したいと考えている。

【事務局】

通院の保証に向けた取組のために、通院のデータ（どこの市町村の住民が通院してきているか等）を得たいと思った場合はそういったデータを保健所は把握しているか。

【保健所】

保健所としてはそういったデータを持ち合わせていない。

南佐久地域では小海分院といったように地域の最寄り病院への通院の保証を確保したうえで、全地域から佐久医療センターなど大きな病院への通院の足の確保を検討したらいかがか。

【交通政策課】

少し話は戻るが、佐久市のどこまで品質保証するかという点だが、知事の発言としてはそのようなニュアンスに聞こえるが、当課としては、課外活動せず帰る場合と課外活動してから帰る場合の2パターンを想定。

課外活動でも時間も異なるし、バスでなくても代替手段で帰れるという全体での交通をイメージ。

観光特化のバスもあるし、路線バスだけで網羅するではなくて、様々な交通手段を駆使して県民の足を確保したいという考え。

【事務局】

観光の話もあったが、軽井沢町は交通渋滞が深刻な状況と思われる。以前聞いた話では、佐久御代田線を軽井沢町まで延伸するような案が出ているとも聞いたが、公共交通に誘導していく取組などはあるか。

【軽井沢町】

軽井沢町の西方面の住民の方は、御代田佐久小諸方面への移動需要が高いため、何か移動手段を確保できないかと考える中の一案といったところ。交通渋滞が激しいところでもあり、まとめて移動する手段として、しなの鉄道やバス路線での移動に誘導することで、渋滞の緩和になるのではと考えている。

定時性を確保するため、右折レーンを設けることで渋滞緩和になるのではないかとということで、佐久建設事務所には要望書をあげている状況。県でもそういった対応も考えていただきたい。

参考資料にあったが、軽井沢町から佐久医療センターへの移動が△にはなっているが、往復で 5,000 円かかことからあまり現実的ではないと疑問に思っている。高齢者は交通弱者で乗継が難しいので、ドア to ドアとまでは言わないまでも、病院に直接行ける手段を県の方で品質保証してもらいたい。

品質保証と言われると響きはいいが、実際に住民の声にこたえられるかという、答えられないと思うので、もっと細かいところまで検討してもらいたい。

また、公共交通や自家用車以外にも歩道の整備をすることで徒歩や自転車での移動を推奨できるような検討してもらいたい。

【JR バス関東】

地方の公共交通は本当に厳しい状況。品質保証もあると思うが、実際に利用する方の理解はどうなっているか。

実際に利用している方に、なんでこんなにバスが少ないのか等を理解してもらうような工夫も必要ではないか。理解されることで維持していくために利用してもらうことで、1 本でも 2 本でも便を増やしていければと思う。

学生が乗ることは多いと思うが、高齢者にはそこまで理解してもらえていないのではないか。もちろんバスだけでなく、デマンド交通やタクシーなど全体としてやっていく必要がある。

【交通政策課】

県の公共交通計画は、対象が 77 市町村になっている。主体は、県・市町村・事業者・県民という計画。

この計画についても、県が考えるという計画ではなく、市町村・事業者・県民などのみんなできちんと知恵を出し合っ
てより良い路線を作っていくのが大切だと考えている。意見をもらいながら、現状に合う形にしていきたいと考えているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

【しなの鉄道】

二次交通としてもバスタクシーを維持してすることが必要。地域の足の維持していくために協力していきたい。

【事務局】

本日の議事内容を反映しながら、佐久地域編の更新案を策定していく。また個別に相談するかもしれないが、協力お願ひしたい。今後のスケジュールとしては、本年 12 月までに更新案を分科会に提出し、1 月頃に部会を開催できればと考えている。

(5) その他

【事務局】

バス路線に重点を置いた話となったが、鉄道やタクシーなども含めた公共交通全般を協議していきたいので引き続きお願ひしたい。